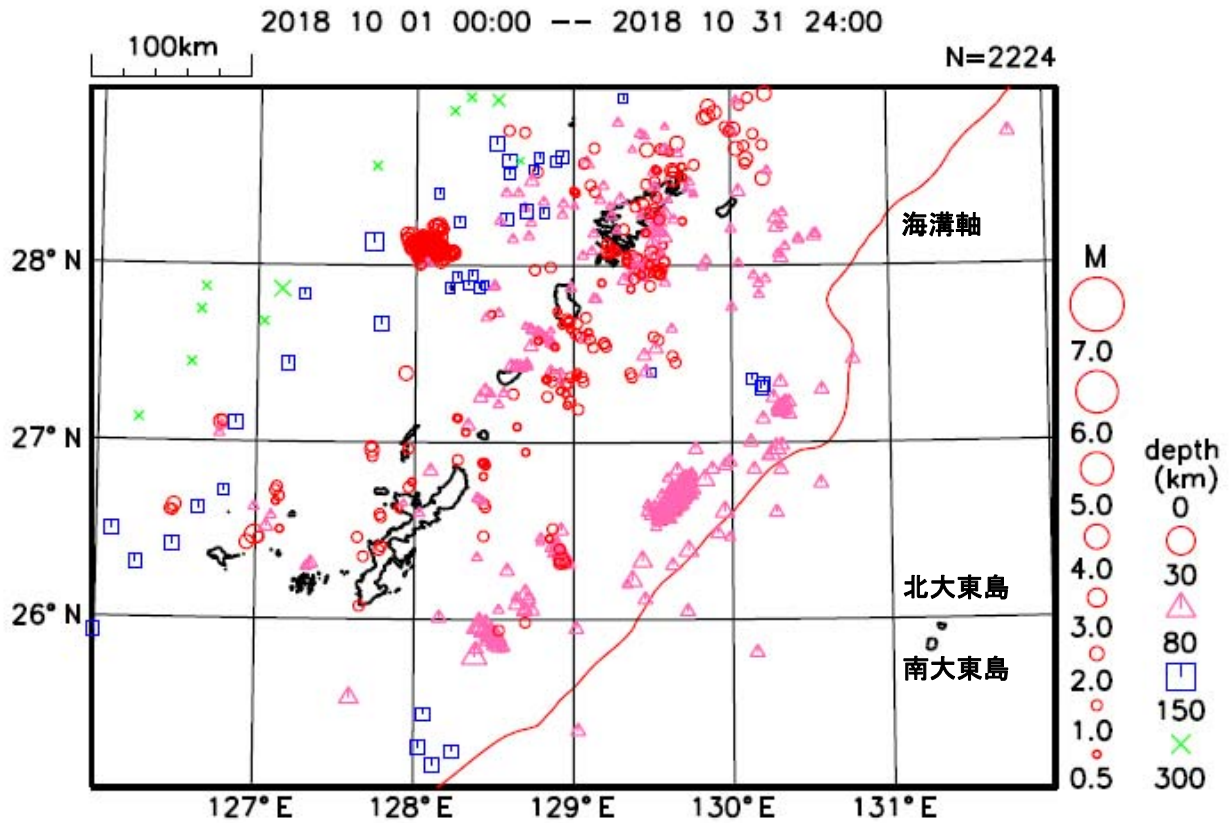


# 地震活動図

2018年（平成30年）10月

南大東島地方気象台

## 震央分布図



震度1以上を観測した地震を吹き出しで示しています。

図中の記号 M：マグニチュード depth：震源の深さ

N：地震回数（マグニチュード0.5以上の回数です）

### [ 概況 ]

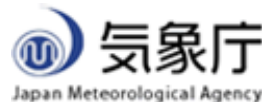
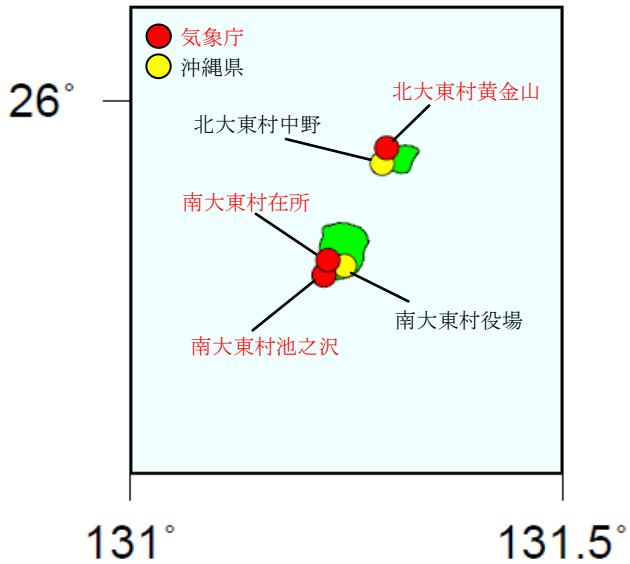
今期間に、大東島地方及び沖縄本島地方とその周辺（図の範囲内）で観測した地震は2224回（9月1777回）で、このうちM4.0以上の地震は7回（9月27回）でした。なお、大東島地方及び沖縄本島地方で震度1以上を観測した地震はありませんでした（大東島地方9月3回、沖縄本島地方9月8回）。

※ 資料中のデータについて

この資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

※ データについては精査により、後日修正することがあります。

### 大東島地方の震度観測点



本件に関するお問い合わせ先

(南大東島地方气象台)

電話 09802-2-2006

<https://www.jma-net.go.jp/daitou/>

## 津波防災の日

11月5日は「津波防災の日」です。これは、嘉永7年（1854年）の安政南海地震により発生した津波が和歌山県を襲った際に、濱口梧陵という人物が暗闇の中で稲に火を点けることで、人々を避難誘導し命を救ったという逸話「稲むらの火」にちなんで決められました。

「津波防災の日」には全国で地震や津波に備える防災訓練やイベントが実施されます。



内閣府「稲むらの火と津波対策」から

日本では過去に、何度も津波による甚大な被害を受けています。被害を少しでも小さくするために、津波の特徴を知って身を守る行動を取れるようにしましょう。

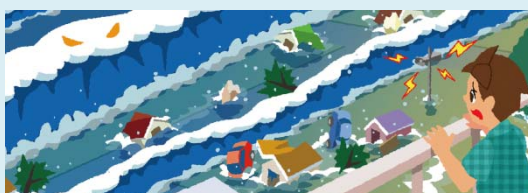
### 津波の特徴と身を守るためのポイント



津波警報を見聞きしたり、強い揺れや弱くてもゆっくりとした長い揺れを感じた場合は、ただちに高台や津波避難ビルなどへ避難しましょう。



津波は沿岸の地形等の影響により局所的に高くなる場合があります。ここなら安心と思わず、より高い場所を目指して避難しましょう。



津波は長い時間にわたってくり返し襲ってきます。津波警報が解除されるまで避難を続けましょう。



地震・津波に関する情報は  
沖縄気象台ホームページまで  
<https://www.ima-net.go.jp/okinawa/index.html>

沖縄気象台

検索

